

申請日: 令和7年9月18日

①学校名:	慶應義塾大学		大学(私立)	②所在地:	東京都港区三田二丁目15番45号				
③課程名:	経営管理研究科修士課程MBAプログラム								
④正規課程／履修証明プログラム:	正規課程(修士)	⑤定員:	修士課程140人(令和6年度MBAプログラム修了者数72人)		⑥期間:	2年間			
⑦責任者:	研究科委員長 中村 洋		⑧開設年月日:	昭和53年4月1日					
⑨申請する課程の目的・概要:	経営管理研究科は個としての自立心、他の尊厳を重んずる精神、明確な使命感、卓越した見識、果敢な実行力を合わせ持つ、優れた革新的リーダーを育成することにより、経済社会の発展と進歩に寄与することを目的とする。そして、修士課程MBAプログラムでは、不確実な環境で将来を見通し、ビジョンを持って目標を定め、戦略的な意思決定を行うための経営全般に関する知識と、社会と組織を先導する使命感やマインドセットを持ったリーダーを育成することを目的とする。								
⑩10テーマへの該当	1 女性活躍	3 中小企業活性化	5 環境保全	7 医療介護	9 起業				
	2 地方創生	4 DX	6 就労支援	8 ビジネス等	○	10 防災危機管理			
⑪履修資格:	学校教育法第102条に規定する大学院に入学することができる者および本学大学院が認める者								
⑫対象とする職業の種類:	現在および将来のビジネスリーダー(具体的には、企業・組織において事業や組織運営を担う管理職、企画職、経営層およびその候補者で、例としては、事業会社の代表取締役、事業部長、部長、課長などの管理職、プロジェクトマネージャー、経営企画・事業企画担当者、スタートアップの創業者・経営者)。								
⑬身に付けることのできる能力:	<p>(身に付けられる知識、技術、技能)</p> <p>1年次に、経営に関する8つの領域に分かれた必修の基礎科目で学び、加えて、1年次後半以降に自分の必要に応じて選択可能な専門科目を修得する。2年次には、いずれかの教員のゼミナールに所属し、1年間をかけて修士論文を作成する。主たる教育方法として「ケースメソッド」と呼ばれる実践的な経営教育方法を採用している。</p> <p>(得られる能力)</p> <p>不確実な環境下で組織が果たすべき役割のビジョンを持って目標を定め、それを実現するリーダーシップ。変化し続ける環境下で新たなビジネスモデルを構想し、実現する力。経営に必要な専門知識。高い倫理観および社会や公共性に対する高い意識。多様なバックグラウンドを持つ人々と共に活動する力。</p>								
⑭教育課程:	実際の企業や組織が直面する経営課題や経営状況をまとめた事例を素材に、ディスカッションを通して新たな知見を共創する授業形式「ケースメソッド」を採用している。加えて、修士論文指導、英語による授業、対話を中心とした授業、実際のビジネス上の課題に対する解決策を検討するフィールドワークなどの教育法を組み合わせて教育を実施する。								
⑮修了要件(修了授業時数等):	42単位以上(基礎科目12単位以上、基礎科目および専門科目の合計で38単位以上、特殊講義2単位、演習2単位)の授業科目を修得し、かつ、経営管理研究科委員会が別に定める成績に関する要件をみたし、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。								
⑯修了時に付与される学位・資格等:	修士(経営学)								
⑰総授業時数:	173	単位	⑯要件該当授業時数:	109	単位	⑯要件該当授業時数 ／総授業時数:	63	%	
⑱該当要件	企業等	○	双向向	○	実務家	○	実地	○	

⑪成績評価の方法:	講義要綱に授業科目ごとに記載している。具体的には、ケースメソッド授業では、授業での発言内容を含む参加および貢献内容が成績評価上高いウェイトを占め、出席状況、筆記試験ならびにレポートの内容も含めて総合的に評価する。その他の授業では、出席状況、授業内での発表内容、筆記試験およびレポートの内容、グループ活動に対する貢献内容等で総合的に評価される。
⑫自己点検・評価の方法:	学校教育法第109条第1項に定める評価を実施しており、評価結果の公表を行っている。また、経営管理研究科独自に、ビジネススクールを対象とした国際的な認証評価機関から継続して認証を受けている。平成12年に米国のAACSB (The Association to Advance Collegiate Schools of Business)から国内初の認証を取得し、その後5年ごとの再認証を得ておりウェブサイトにて公表する。
⑬修了者の状況に係る効果検証の方法:	入学時に、6つのCompetency Goals (CG)とそれを細分化して設定された合計13項目のLearning Objectives (LO)に対する入学時の自己評価を調査し、これらすべてのLearning Objectivesについて、2年修了時点でもどの程度達成されたと思うか自己評価を調査している。また、上記⑪の認証評価機関による実地審査において、修了者グループと審査員の面談が組み込まれており、審査結果に確実に反映される仕組みとなっている。加えて、研究科委員長が派遣企業の経営者層や人事部門長と密接なコミュニケーションを図り、修了者の状況を把握することに努めている。
⑭企業等の意見を取り入れる仕組み:	(教育課程の編成) 上記⑪の認証評価を受け、また、企業トップまたはトップ経験者で構成される顧問会に諮問を行うことに加え、研究科委員長が派遣企業の経営者層や人事部門長と密接なコミュニケーションを図り、教育課程の編成に企業等の意見を取り入れ、外部意見について課程に反映させていく。 (自己点検・評価) 上記⑪の認証評価を受け、また、企業トップまたはトップ経験者で構成される顧問会に諮問を行うことに加え、研究科委員長および専門担当の教職員が派遣企業の経営者層や人事部門長と密接なコミュニケーションを図り、課程の自己点検・評価を行う際に企業等の意見を取り入れ、外部意見について課程に反映させていく。
⑮社会人が受講しやすい工夫:	2年次は自由度が高くなり、学生自身の目的に合わせて設計し、実践力を身につけることができるプログラムになっている。1年次にゼミナール以外の修了に必要な授業科目の単位の大部分を修得すれば、2年次には夜間・週末に実施される専門科目の授業も活用し、興味ある授業科目やゼミナール実施時間以外は昼間働きながら学ぶことも可能。IT等の活用により、いつでも・どこでも受講できる工夫を行っている授業科目も多い。
⑯ホームページ:	https://www.kbs.keio.ac.jp/graduate/mba/index.html